



登録10年の報告を前に



平成28年 コスタリカからの視察

綾の照葉樹林プロジェクトや自然生態系農業の推進など、半世紀にわたり人と自然が共生するまちづくりを進めてきた綾町は、その長年の取り組みが評価され、平成24年にユネスコの生物圏保存地域（国内での通称ユネスコエコパーク）に登録されました。登録を機に役場にはユネスコエコパーク推進室が設置さ

れ、ユネスコエコパークに求められる生物多様性保全・学術研究教育支援・持続可能な地域づくりの3つの機能を果たすための運営体制づくりが進められてきました。

ユネスコに対し、10年間の動向を伝える定期報告を1年後に控えた今、誌面を通して各分野における綾町のエコパークの取り組み実績などを紹介していきます。

内外からの視察受入れ

ユネスコエコパークに登録されたことで、地域間や国際的な協力関係をとることが求められるようになりました。平成24年〜令和3年3月までの期間にユネスコエコパーク推進室で受け入れた国内からの視察・研修は累計324団体。海外からはJICA（独立行政法人国際協力機構）の研

修など32カ国73団体の皆さんが綾を訪問、照葉樹林の保全や調査の取り組みや循環型システム、自然生態系農業の現場などを視察しています。

このように、ユネスコエコパークの登録は、綾町の「自然との共生」を理念とした半世紀にわたるまちづくりの先進性や重要性を広く伝えるとともに、共感し応援してくれる人々のネットワークを拡大することに繋がっています。



平成30年 台湾からの視察

綾ユネスコエコパーク推進室・ユネスコエコパークセンター

☎77-3482 URL <https://ayabrcenter.jp> ※エコパークセンターは毎週日・月曜日および祝日休館

column

モツゴ

漢字で書くと「脂魚」、別名はクチボソです。

細い口で勢いよくエサを食べる際には「パツパツ」という音が聞こえます。かわいらしい口ですが、エビなどの小動物を追い立てて食べたり、繁殖時期にはオス同士が縄張りをめぐって激しくケンカすることもあります。

西日本を中心に全国の川やため池に広く住んでいます。10センチ前後と小さな体ながら、日本各地で昔から食用に用いられ、唐揚げや塩焼き、佃煮として食べられてきました。





登山体験会の様子



標高664メートルの山頂からは町内をはじめ宮崎平野を一望できます。

参加者募集！綾岳トレッキング

綾岳登山コースのオープンを記念して、エコパーク推進室の職員が山頂までの往復を案内するトレッキングを開催します。この機会に“わがまち”の山歩きをお楽しみください。

■日時／5月23日（日）
午前9時登山開始（午後3時下山予定）

■定員／先着20人

■申込方法／
エコパークセンターのホームページにある申込書に必要事項をご記入のうえメールまたはFAXでお申し込みください

※集合場所や持ち物など詳しくはホームページに掲載します



町の登山道ができました！

綾てるのは森の宿と綾川庄の中間地点を流れる尾谷川を山側へ少し歩くと登山口があります。ここからの登山道は利用者がほとんどおらず、倒木や枯れ落ちた枝などで荒廃していましたが、気軽に歩きながら自然に親しめるコースにしようとエコパーク推進室が宮崎南印刷の協力で整備を行ってきました。そして、町で一望できる頂きを「綾^{あやたけ}二岳」と名付け、この4月から登山道を管理することになりました。

3月27日には、お披露目を兼ねて綾小学校5・6年生の希望者を対象とした登山体験会を実施し、7人の児童と2人の保護者がトレッキングを楽しみました。今後ともこうした登山会を定期的に開催していく予定です。

山頂まで往復4時間の「綾岳コース」。地元の登山道として町民の皆さんに親しんでもらえれば幸いです。

ムラの肖像

1967年に綾南川上流で撮影された1枚。

子どもや若者たちの夏の楽しみと言えば、川に飛び込んで泳いだり魚釣りをしたり。田中則明さん（倉輪・釜牟田集落）は「家の手伝いしながら、毎日、山や川で遊びました。自分で道具を作ったり、友達といういな遊びを考えたり。いい思い出です。現代の子どもたちにもたくさん自然体験をしてほしい」と話しています。

照葉樹林に抱かれた、棚田や清流の美しい風景が昔と変わらず残る倉輪地区。住民の皆さんは、自然の中で育った記憶がふるさとの豊かな自然環境を大切に育む心を持っているといえます。



※昨年11月から町内の小規模集落で行っている「綾の肖像プロジェクト」で集めた写真の中から毎月1点を紹介します